関西詩人協会会報

第108号　2023.1.10
発行者・左子真由美

①新年のご挨拶／第29回総会報告
②講演「詩のよろこび、詩のカージャック・プレヴェールの詩とともに」
③追悼　有馬敲さん
④関西詩人協会 イベント2022 報告
⑤自選詩集第10集発行／運営委員会の模様
⑥新入会員の紹介
⑦今後の予定／編集後記
⑧入退会／会員の活動／会員の詩書／会員発行の詩誌／団体の会報・図書　（敬称略）

新年のご挨拶

みなさまあけましておめでとうございます。よい年の初めをお迎えになられたことと思います。平素は関西詩人協会にご尽力、ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、昨年の総会は第29回総会でした。ですので、今年は30回となる記念の年です。新たな十年の始まりの年、清々しい気持ちで歩き始めたいと思います。

コロナの第八波が始まっているような昨今ですが、みなさまのご協力と運営委員の方々のご努力により、おかげさまで文学散歩、詩画展、詩のイベント、そして総会と開催することができました。また、自選詩集第10集も無事発行することができました。様々な工夫をこらしてコロナにめげず活動を行えたこと、奇跡のように思えます。この小さな奇跡が当たり前の日常になりますようにと祈らずにはおられません。

一方海外に目を向けると、こうして日常の歩みを続けている間も、ロシアはウクライナへの攻撃を緩めていません。こんな時代、私たちに何ができるのか、言葉で何ができるのかと自問してしまいます。私たちの発する言葉は微々たるものかもしれませんが、せめて自身のことばかりでなく、世界のこと、世界の人々のことを思う気持ちだけは忘れたくないと思います。

今年がみなさまにとって佳い年でありますように。みなさまのご健勝とますますのご健筆を祈りつつ、年始のことばとさせていただきます。

（代表　左子真由美）

第29回総会報告

日時：2022年11月23日（祭）
場所：大阪キャッスルホテル

会員の参加者は48名、委任状の提出は103名でした。

開会挨拶　総合司会 松村委員
物故者への黙禱（逝去7名）
有馬敲・岸田裕史・境節・黛元男・早川玲子・船越貴穂・山本なおこ
代表挨拶　左子真由美代表
議長選出　北村 真（拍手で承認）
議事

1、運営事業報告　島委員
①運営委員会　年6回（内リモート開催2回）
②役割分担　変更はありません
③入退会の状況　入会者7名　退会者12名
現在会員数225名
④年間事業報告
イ、入退会事務・会員名簿作成　入退会の承認は各回の運営委員会で。
会員名簿は1月に作成。名簿の広告募集中1頁1万円。
ロ、詩のひろば発行　年2回の発行。担当者が病気治療中で以後休刊中。
ハ、総会　昨年11月21日実施。参加会員52名　委任状105名。
二、詩画展　大阪府立中央図書館で開催。27名参加。冊子を作製中。
ホ、文学散歩「三島由紀夫『愛の渇き』をめぐる」を6月25日実施。
豊中倶楽部で作品の朗読、作品の舞台を散歩しました。
ヘ、兵庫県現代詩協会との交流会　詩誌の歴史と紹介をメインテーマに西宮市民会館で開催。参加者は合計で57名でした。
ト、関西詩人協会イベント2022　9月24日ドーンセンターで開催。
四元康裕氏の講演「詩の前線から」と松尾泰伸氏のピアノ演奏。
参加者38名うち会員外7人でした。
チ、国際交流　世界情勢の変化により、特別な活動は行えなかった。
『言葉の花火』の普及に努力しています。

2、会報発行報告　森下委員
会報は年間4回発行。600部で各地の詩人協会、新聞社等にも寄贈。会員のイベント等にも会報の活用を。チラシ等を2000円で会報に同封することも可能です。

3、インターネット・ホームページの報告　田島委員
会員の詩は12作（自選詩集第9号、25周年記念号より転載）エッセイは11作を掲載。また、会員の活動も紹介しました。

4、会計決算報告　北口委員
2022年度の決算報告と事業別収支報告

5、会計監査報告　神田会計監査委員
（神田委員欠席のため代読　島委員）

6・規約変更の提案　島委員
改正案
第2章　会員　h．永年会員
5年以上本会に在籍した会員は、満80歳を越えたとき、生年月日及び本会在籍期間について記載した書面をもって、該当年の9月30日

までに事務局に申し出ることにより、運営委員会の承認を得て、翌年度より永年会員となることができる。なお、この承認は翌年1月1日発行の会員名簿に反映されるので、会員名簿において永年会員記載されていることをもって、永年会員会費の適用を受けるものとする。

また満80歳を越えて本会に入会した会員が、引き続き5年間本会に在籍するに至ったときも同様とする。

事由

永年会員の会費適用時期を特定するため。

7、議案採決

以上の報告議案を拍手多数で採決

8、次年度事業計画案　島委員

①会報年4回の発行　②詩画展開催　③文学散歩
④イベント企画　⑤自選詩集の合評会の開催
⑥来年は役員改選（代表も含む）の年度になります。

9、次期予算案の提案　北口委員

10、次年度案を拍手多数にて採決

以上で全ての議事は承認された。議長退任。

会計報告は総会前に会員に配布した「資料集」に収録したものと同じ。

講演　左子真由美氏

「詩のよろこび、詩の力―ジャック・プレヴェールの詩とともに」（別途掲載）

『自選詩集第10集』出版記念会

担当吉田・森下各委員から挨拶があり、参加者5名（内田縁、北村真、藤原功一、都圭晴、井上良子）による自作詩を朗読しました。

新入会員の紹介

嵯峨委員から7名が紹介され、当日の参加者は1名都圭晴さん。

本年度会員が出版した詩書紹介

永井・高丸各委員により紹介され総会参加者9名（大西久代、北村真、阪井達生、田島廣子、外村文象、南条ひろし、橋爪さち子、原圭治、村野由樹各氏）が手に詩書を持って壇上に並び、朗読あり、報告ありの機会を得ました。

閉会挨拶　永井委員

懇親会は中止しました。

（文責　書記 阪井）

（撮影 尾崎まこと）

講演
「詩のよろこび、詩の力―ジャック・プレヴェールの詩とともに」

左子真由美

今回の総会で「詩のよろこび、詩の力　ジャック・プレヴェールの詩とともに」という演題でお話をさせて頂きました。私は20歳でプレヴェールの詩と出会ってから彼の詩の虜となり、乏しい語学力にも関わらず翻訳などを試みてきました。

「彼は文学から来たんじゃない。街から来たんだ」というリブモン・デセーニュの言葉が、一言で彼の詩を表していると思います。平易な詩ばかりです。

プレヴェールは二つの大戦を経験し、シュルレアリスムやキュビズムなど大きな変革の時代、狂乱の時代のなかで、既成の概念や自由を奪うものへの抵抗を詠いました。

彼は映画の脚本家としても数々の名作を残しています。中でもシャンソン「枯葉」と映画「夜の門」のエピソードや、フランス映画史に燦然と輝く「天井桟敷の人々」について、また、詩集『パロール』の誕生のいきさつと詩集の中の数篇の詩の紹介をさせて頂きました。

最後に名詩「バルバラ」について。バルバラの詩のまさにその場所に立ちたくて、私はこの夏、ブルターニュの軍港ブレストまで行って来ました。第二次世界大戦で壊滅的破壊を受けたブレスト。そのブレストと詩の舞台になったシャム街の写真をプロジェクターで投影しながら「バルバラ」を朗読。そして、プレヴェール自身による朗読も一緒に聞いて頂きました。

お伝えしたかったのは、詩は心を閉じ込めるものではなく、解放するものであり、よろこびを与え、生きる力を与えるものであってほしいということです。プレヴェールの詩をご紹介できるという大変良い機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。

〈後援：日本現代詩人会〉

追悼 有馬敲（たかし）さん

永井ますみ

有馬敲さんが亡くなられた。彼は関西詩人協会設立当初からの運営委員で、２０１１年から６年間代表を務めて下さった。

昨年９月23日朝、脳幹部出血で居間で倒れ、病院に搬送され、24日には死亡確認という慌ただしさだったようだ。代表の左子真由美さんと10月14日にご自宅を訪ね手を合わせて来たので、ご報告します。

有馬敲さんの79歳２０１１年頃から良く行動を共にして頂いた。その経歴を紹介し、追悼したい。

有馬敲というのはペンネームで本名は西田綽宏（のぶひろ）と言い、１９３１（昭和６）年12月、京都府亀岡の生まれで、家業は父の代から始めた寒天業者だったという。大学は同志社大学経済学部卒業。

京都銀行亀岡支店に就職。以後転勤、昇進を重ねて、42歳の時に京都銀行の金閣寺支店長となった。24歳の時に結婚。一男一女を得る。45歳で転職したタカラブネから松山へ単身赴任したり、アメリカやスイスに出張したのだが、その時には必ず詩に関連した朗読会を組織したり、覗いたりしている。

住所地では「現代京都詩話会」を創設。作品的には「わらべうた」「替歌」「パロディ」転職前後の悩み多き時代には14行詩も沢山書いている。それらの書かれた詩は教科書に採用されたり、作曲されて楽譜になって広く流布している。１９７０年前後の「フォークソング」の時代には、書かれた詩が高田渡などによってギター伴奏で歌われたりした。

１９６５年、京都に「ほんやら洞」という朗読の拠点が出来てからは、もっぱらそこで朗読や歌の催しがあったようだ。有馬さんは片桐ユズル、秋山基夫、中山容等と「オーラル派」宣言をし、朗読の時はオーラル派を名乗るようになる。

54歳の時「訪中・ソ・モンゴル経済友好代表団」の一員としてシベリア・モンゴル・中国を訪問。以後も私的に中国、イギリス、ドイツ、スイス、オーストリア、スペイン、トルコ、タイ、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ニューヨーク、韓国等々数え挙げていたら切りがないほど訪問している。その間には英語、フランス語、ハングルの個人レッスンを受けている。凄い努力だと思う。そして訪れた土地での詩を書いて残している。

国際的な朗読会は１９９４年58歳の時「ソウル国際詩人祭に初めて参加」とある。以後折りあれば国際詩祭に参加しているが、その時には自分の詩を各国語に翻訳したものを持参して、聴くと共に読んでもらえるようにしている。交流が深まるとその人の詩集を日本語に翻訳したり、翻訳して貰ったり。『火柱の美学』によると、有馬さんは２００７年までに実に34回もの国際的な詩祭に参加している。京都では『海陸風』という日英対訳の冊子を31号まで出版し、その分、自身の英訳詩も生まれている。

そのような国際交流の中で一篇づつの翻訳詩は沢山あるが、単行本としての翻訳詩集は約31冊と驚くべき数だ（見落としがあるかも知れない）以下に挙げる。『実在への旅路』フランス語・英語・ロシア語・韓国語・中国語、『孤独な遍歴者』（フランス語・英語）・ギリシャ語、『小オデュッセウスのうた』（日本語・英語・ギリシャ語）ドイツ語・ギリシャ語、『東西南北』スペイン語、『未知からのメッセージ』ブラジル・モンゴル語・オランダ語・（ベンガル語・英語）・（テルグ語・英語）・テルグ語・ルーマニア語、『列島往還』英語、『有馬敲詩集』英語・モンゴル語・中国語、『極東の空の下で』（スペイン語・英語）・マケドニア・ロシア語、『ユリシーズの影』ルーマニア語、『馬飼いの話』モンゴル語『有馬敲短詩選』中国語、『最後の自然』アラビア語『転生記』フランス語、『マケドニアの出来事』マケドニア、『ヒロシマの鳩』マケドニア、『終わりの始まり』ヒンディー語

このような熱い国際交流は２００７年10月にあった「日印文化交流50年記念」（インド・ニューデリー）を最後とした。75歳だった。

１９９３年の61歳頃から既発行の詩集や詩論の統合を【作品集】という形で纏め始めていて、例えば（第一巻が手許にないので）『作品集第二巻・転生記』には、四一歳から四九歳までの『終わりの始まり』『迷路から』『白い闇』の三冊が三部作の形で全編収録されている。そして、亡くなられた２０２０年の３月に『作品集第二十六巻・老人』を出版。

私が仕事をリタイアしたのが２００９年で、以後ビデオを持って撮影編集をしている。有馬さんが提唱した『現代生活語詩集』を竹林館が手がけ出してから、作品をビデオ収集してまわっていたのだが、海外から手を引いた有馬敲さんが同行して下さったのは、２０１１年、東日本大震災があった二ヶ月後の５月、日本現代詩歌文学館からだった。以後大阪藤田邸跡公園、東京、敦賀、沖縄、岡山、福岡、宮崎、札幌、山形、島根、神戸、京都、大阪と、地域の参加詩人たちの声と共に有馬さんの朗読の様子を親しく収録させてもらった。

有馬敲さんの詩は批評精神に溢れたものと自省の詩があり、その生き方を俯瞰して分かることは、一貫した現場主義とアッピール力だと思う。自分の生んだ詩や論評は時があれば何度でも世の光を浴びさせてやりたい。当然だ。彼の詩が何度でも世の中に出て、何度でも歌われて欲しいと思う。

『自筆年譜』１２０頁に「自分の七三歳の誕生日に、自分の命日を「寒蝉忌」と決めると記載がある。

じぶんじぶんじぶん／じぶんじぶんじぶん／じぶんじぶんじぶんじぶん／じぶんじぶんじぶんじぶん／／じかーんじかーんじかーんじかーん／じかーんじかーんじかーんじかーん／じかーんじかーんじかーん／／じゆうじゆうじゆう／じゆうじゆうじゆうじゆう／じゆうじゆうじゆうじゆう／じゆうじゆうじゆうじゆう

（「せみ」ありまたかし）

関西詩人協会
「イベント2022講演・演奏・朗読の午後」

報告 船曳秀隆

9月24日右記イベントがドーンセンターで催された。参加者は、会員が38名、一般が7名であった。

四元康祐氏の講演「詩の前線から」の要旨
（この部分の文責：永井ますみ）

四元さんは大阪生まれで、4歳まで過ごされたそうです。他の略歴は106号会報をご覧下さい。

まず最初の前線は、令和のニッポンの詩です。

二年前から大学で詩を教えています。そこで若者が詩を求めている事が分かりました。それは詩論としてではなく自分が書く詩であり、友人が書く詩です。深いレベルで自己を開放し、他者と交わるためのコトバとしての詩を求めているのです。

大学生の詩の雑誌「インカレポエトリ」は、17校から100人以上の学生が投稿していて、各大学で教えている詩人講師が編集人となって運営しています。

松尾芭蕉の「古池や蛙飛びこむ水の音」を現代詩に「翻訳」するという課題に応えて書かれた詩を二篇紹介します。芭蕉の古池と蛙の音を自分自身の心の波紋や、自分自身の孤独に重ねて書いています。ふたりとも詩を書くのはほとんど初めてだと言っていましたが、自分の深層世界が芭蕉の俳句という媒介によって自ずと迸り出てきたような印象を持ちます。

「日本国憲法前文を現代に翻訳せよ」という課題に応えた詩を紹介します。憲法の固くて重厚な観念語が、こんなにしなやかで個人的な言葉に変身したことに、驚くとともに感動を禁じえませんでした。

二つ目の前線として海外の現代詩紹介します。

海外の詩祭も過去二年間はコロナで中止になっていたのですが、この夏はようやく三年ぶりに各地で詩祭が開かれたようです。そのひとつがマケドニアのストゥルガで開かれた国際詩祭です。金冠賞が今年は日本の谷川俊太郎に授かり、名代として息子の賢作さんが参加しました。僕も自分の詩を朗読する傍ら、谷川さんの詩を賢作さんのピアノに合わせて朗読しました。

この詩祭で知り合った若い詩人たちの一人、サランダさんの「降下」という詩に日本の学生の詩と共通のものを感じます。社会における自分の孤独や疎外感、傷つきやすさが滲みでているような印象があります。

スロベニアの詩人、ブラネさんの作品は戦時下におけるラブポエムだそうですが、ブラネ自身がゲイの詩人で、同性愛詩のアンソロジーを編んだりもしています。

Sethはアメリカ人で大学で詩を教えていますが、その傍ら中南米からの不法移民が拘留されている凶悪犯刑務所を訪れて、そこの少年たちに詩を書かせています。さらに大学の学生をそこへ連れて行って、少年たちがスペイン語で書いた詩を英語に訳すというワークショップを行っています。その成果をまとめたのが「Dreaming America」という本です。そこから二篇を紹介します

僕は突然泣くのをやめて／あたりを見回す。／胸が張り裂けそうになる。／美しいものに囲まれているのに／僕には手を触れることができない。／／僕は悪を見る。僕は悪をやめることができない。／悪は影のように僕につきまとう。／でも何よりも悲しいのは寂しき天使だ。／だって彼は飛べないのだから。／／だって僕は誰かを信頼しながら／やっぱりその誰かを裏切ってしまうのだから。／だって彼は誰かを信頼したのに、裏切られてしまうのだから。／僕は寂しき天使を可哀そうに思う。／／僕は鏡を覗き込む／すると寂しき天使が見える。／寂しき天使は僕自身だったのだ。／自分が自分を可哀そうに思っているのに気づいて／僕ははっとする。（寂しき天使）

この少年たちが潜り抜けて来た現実は、日本の平和な社会や、内戦から20年たったバルカン諸国の現状とは較べることもできないほど苛酷なものですが、この詩にも日本やヨーロッパの若者たちの詩に通じるものを感じるのです。

最後の前線は、現在ウクライナで戦われている戦争との関連でみた詩の在り方です。

Anne Applebaumというアメリカの政治学者によれば、ユダヤ系ドイツ人の哲学者であるハンナ・アーレントは、その代表作『全体主義の起源』のなかで、戦前の一般的なドイツ市民がなぜナチスのプロパガンダを信じ、ヒットラーを指導者として仰いだかを分析したうえで、その理由のひとつを「寂しさ」に求めたそうです。

社会の共同体が壊れ、疎外感や被害者意識に襲われたとき、人々はやりきれない寂しさを抱え込みます。その寂しさを癒すために「物語」にすがりつく。それは理不尽で荒唐無稽であっても、それを信じている者同士の一体感、部族への帰属意識は高まることになります。プーチンの「ナチス勢力から救うために起こした軍事作戦」もゼレンスキーの「急遽立ち上がってきた英雄像」も物語に過ぎません。しかし、ふたつの物語の間にあってEU、とりわけドイツはおろおろしている印象が拭えません。なぜならそこには有効な物語がないからです。経済危機や難民問題を背景に極右政権や民族主義が台頭して、厳しい現実に引き戻された現在のEUは単なる官僚制度となっています。

日本の若者たちの間にも「寂しさ」が広がっています。けれども彼らには、口当たりの甘い幻想としての物語すらありません。マケドニアのサランダも、スロベニアのブラネも、そしてもちろん米国の強制収容所に閉じ込められている不法移民の少年たちも物語なき世界に生きています。その代わり、彼らには詩があります。そして詩は、物語の誘惑に抗う免疫のような力を持っています。彼らは詩の力によって、寂しさと闘い、孤独を引き受けようとしています。それが詩の本来の在り方なのかもしれません。

だとすれば、今日お話しした詩の前線は、私のなかにも、また皆さんのなかにも伸びているものだと思います。私たちもまた、詩を書くことによって孤独を己がものとし、安易な物語に取り込まれない力を育んでいるのではないでしょうか。

第二部は松尾泰伸氏（プロフィールは会報106号を参照下さい）の演奏である。松尾泰伸氏は、世界中の聖地・世界遺産で奉納演奏をし続け、世界遺産男とも呼ばれている。クラシックでもジャズでもないその演奏から発する癒しの力によって、聴く人々を見ちがえるように元気にする。この日は、ご自身の作曲された曲「inochi

（命）」、「天と地のレクイエム」、「みんないっしょ」、「祈り」を演奏された。聴き手の心に深く滲み入ってくる音楽により、日常では体験できない癒しを得る経験ができた。曲の間で、ご自身の曲についてのエピソード等を、ユーモアも交えながら、お話しをされた。

第三部では、来羅ゆら、正岡洋夫、橋爪さち子、榊次郎、尾崎まことによる詩の朗読。第四部では、会員による五行詩の朗読がされた。（大西久代・紀ノ国屋千・北口汀子・青葉みなと・福田ケイ・中西母ねこ・田島廣子・村野由樹・遠藤カズエ）それぞれ個性溢れる朗読であった。

講演・演奏・朗読という盛り沢山な内容で、充実した良い会になった。それぞれ自らの心に何かしら刻み込まれたものが有ったのではないかと思う。

自選詩集第10集が発行。

『関西詩人協会 自選詩集 第10集』を12月1日づけで発行することができました。今回は115名の参加となりました。作品を集めるだけでなく、表紙カバーの作成もさせていただいたことは良い経験となりました。皆さまのご協力のもと無事に発行することができました。ありがとうございました。（森下）

いつもは配布して終わりなのですが、今回、初めて次の事を皆様の交流のために推奨したいと思います。

① 気になる詩五篇におたより運動

良かったなと思う人5人に、メールなり葉書なりを、送ってあげましょう。感じたことをほんのちょっとでもいいんです。声をかけあうことが、お互いに詩を書いていく励みとなります。メールや住所については『関西詩人協会会員名簿』をご覧下さい。

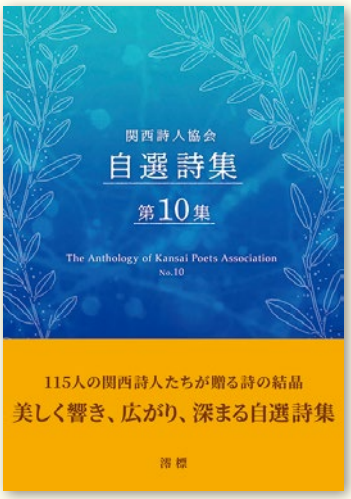
② 出版記念合評会の御案内

合評会を用意しています。同人などグループに所属している方も、どこへも所属していない方も、どうぞお気軽にご参加ください。いつもと違う人達の中で読まれるというのも、気分が変わって良いものです。自選詩集の中にハガキを同封しましたが、ハガキを失われた方は1月15日〆切りとして、永井まで御連絡ください。

日時：2023年1月29日（日曜日）
午後1時半～（5時迄には終わります）
参加費：500円
場所：
大阪国労会館 3階大会議室
〒530-0034
大阪府大阪市北区錦町2-2
電話：06-6354-0661
環状線JR天満駅下車
改札を右へ出て右回り。
環状線路沿い徒歩5分。
担当：
永井ますみ
090-4289-8225
高丸もと子
090-7872-8985

■自選詩集不参加の方へ

不参加の方には配布できておりませんが、定価2200円のところ、2割引でお分けしておりますので、ご希望の方は、松村信人委員までご連絡下さい。



運営委員会の模様

2022年度 第6回 関西詩人協会運営委員会 議事録

日　時：2022年10月9日(日)13時30分～16時30分
場　所：国労会館
出 席 者：13名　議事進行：島

1、各担当の2022年度計画及び当面の取り組み。

① 入退会報告
入会者2名　退会者4名　ご逝去2名
永年会員申請1名　承認後の会員数225名

② 会計報告
会計報告を承認。　総会に提出する決算報告、次年度の予算案、各事業の収支報告を承認。
総会に提案する永年会員の規約改正案を最終決定。

③ 会報
会報108号の発行は1月10日　原稿の締切は11月末

④ ホームページ
アクセス数313件8月5日より
会員の詩8月1日より　猪谷美知子　大倉元　近藤摩耶
会員のエッセイ　畑章夫（9月）　いしだひでこ（10月）　志田恵（11月予定）

⑤ 詩のひろば
10月に15号を発行済。担当者が病気治療中のため、以降は休刊となります。

⑥ 詩画展
12月19日発行予定で展示作品集を作成中です。

⑦ 詩のイベント
参加者のメール、ZOOMを中心に報告がありました。
参加者45名（会員外の参加者7名）イベントはビデオ編集してDVDを作成しました。（実費で500円）

⑧『関西詩人協会自選詩集』
参加者115名　11月の総会までに出版予定。
5人の仲間に声かけ運動　自選詩集を読んで、作者5名に感想などの声かけを。
自選詩集の合評会を行います。1月29日（日）午後1時30分　場所 国労会館

2、総会準備と役割分担

① 総会資料の作成
各担当者が年間報告を作成する。総会までに総会資料と委任状・出欠ハガキを会員に送付する。

② 総会の担当者・役割分担を決めました。

（書記　阪井）

新入会員の紹介

深い森の奥に　山本光一

寂しさは
他人と仲良くするようにと
神様が教えるため
懐かしさは
寂しさが紛れるように
懐かしさは
深い森の奥の泉
泉の底からこんこんと
わき出る水のよう

今年の秋の新作和菓子
「泉のほとり」
透明感のある錦玉糖を泉に見立て

山本光一（やまもと こういち）
今まで詩集を三冊出している。受賞歴はないが2016年の詩と思想の現代詩の新鋭に選ばれた。学生時代まで三田市にいて、その後就職して四十年間関東地方（主に茨城県）に住んでいた。今年六月に三田の実家に戻る。仕事は技術系。日本詩人クラブ会員。

春のたより　角野裕美

ずっと傍にいるはずだったのに
あのひともあのひともあのひとも
―もういない
遺される度に身に沁み
身に刻み込まれていくあのひとたちの軌跡

そしてまた定め通りに桜は咲く
咲き誇り咲き乱れ
時を違わずさわさわと散っていく
雲雀は唄い桜東風は吹き渡り
朧夜の月も部屋の中まで忍び込む

―定めには逆らえない
だからこそ
今というひとときを生きなさいと
あのひともあのひともあのひとも
ほら其処此処に
美しく姿を変えては
ぬくもりある黄泉からのたより
見えないひとたちがきっと励ましている

角野裕美（かどの ひろみ）
令和3年11月30日、第一詩集『ちゃうんちゃいます?』を発刊。はじまりは勢いだったが、継続するは難しい。関西詩人協会入会のご縁も頂戴し、有り難い限り。これを機にまた、私なりの言の葉をボチボチ掬い上げて伝えられれば…と願う。

伊香立の恋　馬渕兼一

もう恋をすることはないかもしれないけれど
わたしは伊香立の自然を求めている
いまはあまりにも懐かしい恋に
淡くも恋をしていた
少年の日に戻るため・・・

木の根元近くで蜜を吸うカブトムシも
百合と百合の間を飛び回るキアゲハも
小川の淵を素早く泳ぎゆくアメンボも
少年の日のわたしには関係なかった
それら虫たちのいる自然のなかで
真昼の草のうえに
少年の日のわたしは一人の少女を寝かせ
日焼けした細い腕に
注射針に見立てた真菰の茎を突き刺していた
「痛いわ！」
少女のふたもとの素足近く
擬宝珠の花々がいっせいに揺れた
少女はゆっくりと目を閉じた
けれどもそれはもう恋ではなかった

馬渕兼一（まぶち けんいち）
私は詩作の他に短歌と俳句をつくっています。〝二兎を追う者は一兎をも得ず〟のところ三兎も追っていますが、どれも魅力的な詩型です。昨年、「近江詩人会」に入らせていただき、この縁で関西詩人協会に入会させていただきました。皆様と詩を語り合えるのも心底楽しみにしています。

白萩の詩

横井 司

白萩が風に揺れて
白い色を零しています

ここは名も無い　萩の寺
さらさら　ゆらゆら
白萩が揺れて
白い色を零しています

昨日
あなたが　遠い遠い国へ
旅立ったことを聞きました

楽しい時間をありがとう
悲しい時は励まして
勇気付けてくれた
そんな　やさしいあなたを
忘れない

白萩が風に揺れて
白い色を零しています

横井 司（よこい つかさ）

自分に詩なんて書けるのかな?そう躊躇しながら詩を書き始めました。出来るだけ肩の凝らない、自分なりの言葉で詩を書いていこうと思います。時に生真面目に、時に遊び心で。お仲間の叱咤激励をお願いいたします。

【今後の予定】

■詩の実作講座

・1月14日（土）午後2時～5時
第474回 受領誌から広がる詩の世界
講師 高丸もと子

・2月18日（土）午後2時～5時
第475回 詩とメタファー
講師 寺沢京子

・3月11日（土）午後2時～5時
第476回 実作・その場で題を決めて詩を作ります。

場所：あべのベルタ3階
大阪市民学習センター会議室
（大阪市営地下鉄 谷町線「あべの」駅下車すぐ）
参加費：1000円

■詩を朗読する詩人の会「風」

・1月15日（日）第527回 ゲスト 詩誌「PO」のみなさん
・2月19日（日）第528回 ゲスト 大西隆志さん
・3月19日（日）第529回ゲスト 来羅ゆらさん

時間：午後2時30分から5時まで
場所：「円山珈琲倶楽部」TEL 06-6351-0599
〒大阪市北区天神橋2北1-7
地下鉄「南森町」、東西線「大阪天満宮」駅下車
③番出口上がる徒歩1分
参加費：1000円
連絡先：榊 次郎（06-6574-1085）

以上の予定ですが、いずれもコロナの感染状況により延期する場合があります。

■（一社）日本詩人クラブ例会IN大阪

日　時：2023年2月11日（土）13時30分～（受付13時より）
場　所：大阪ドーンセンター 4F 大会議室1
参加費：会員・会員外 共1000円
懇親会：18時～　大起水産八軒家浜まぐろスタジアム
会費 5000円
講師　野沢啓
演題　吉本隆明と萩原朔太郎の言語隠喩論
自作詩朗読・嵯峨京子・瀬崎祐・高橋達矢・永井ますみ・藤井雅人
申込・問い合わせ　神田さよ
〒665-0062
宝塚市仁川高台1の3の10の317
同封の葉書または官製ハガキでお申し込み下さい。
申込締切・2023年1月20日（金）

会員を募集しています。

関西詩人協会は、関西在住の方、または関西にある詩誌に関係があればどこの住所の方でも受け入れています。

お友達に、詩に興味のある方がおありでしたら、入会をお勧めください。会員の推薦者が一人必要ですが、お近くにいなければ事務局にご相談ください。

【関西詩人協会事務局】〒651-1213 神戸市北区広陵町1-28　石井方 永井ますみ
TEL／FAX（078-581-9582）

〈編集後記〉

2022年の12月にこの編集後記を書いていますが、あっというまに一年が過ぎました。毎年この時期になると同じことを言っているので、おそらく2023年もあっというまに過ぎていくのでしょう。それでも2022年は自選詩集の担当にもなり、さまざまな詩に触れさせていただいたことで、より詩を身近に感じることができたように思います。12月は何かと忙しい雰囲気ですが、年末に向かうにつれて静けさが増していって、鐘の音で新年を迎える。この何とも言えない空気感を詩にするために、ふと浮かんでくる言葉を逃さないように、日々詩に向きあっていきたいものです。

（会報担当　森下）

【入会】

角野裕美

馬渕兼一

【退会】

今井直美男、小林聡、安福奈津子、辻田武美

【ご逝去】

有馬敲（9月24日）、清水一郎（4月）、山田兼士（12月6日）

【メール変更】

青島江里　nemofila8823@gmail.com

【会員の活動】

左子真由美　10月18日付「文化通信」にエッセイ「伊東静雄詩集『わがひとに與ふる哀歌』復刻の頃」を発表。10月30日、茨木市クリエイトセンターにて、左子真由美の詩による歌曲集「カテドラル」（大澤弘之作曲）より数曲が合唱曲として歌われました。

奥村和子　10月9日、旧杉山家住宅で「石上露子と戦争」について講演。

小松原惠子　秋季国際水彩画展2022公募入選「青い風」

下前幸一　「人民新聞10月5日号」書評欄にアンソロジー『いのちを抱いて歩もう―コロナを克えて』の評・解説を執筆。田島廣子、犬飼愛生、山下俊子、加納由将、山川茂、中西衛、斎藤明典、田中猫夢、岩井洋、西崎想、北村真、志田静枝、根来眞知子、来羅由羅さんの詩を部分紹介する。

関中子　詩集『誰何』で第18回日本詩歌句随筆評論大賞詩部門優秀賞を受賞した。

畑中暁来雄　詩集『資本主義万歳』が第25回日本自費出版文化賞の詩歌部門特別賞受賞（朝日新聞9月8日25頁に掲載）

原圭治　第63回松本市芸術文化祭で詩と写真「愛おしい鶏たちは何処に」松本市長賞を受賞しました。

水谷有美　せたがや歌の広場の作曲家の鈴木重夫さんの歌曲集が秋に出されました。その中の歌に、私の詩が4つ使われました。「ひ・とり」「忘れ形見」「挨拶」「水」又、コンサート用に新曲「メロディー」の歌詩を書き下ろしました。

宮崎陽子　ホテルアウィーナ大阪で絵「ラララ」一年間展示（2022/12/1～2023/11/30）高丸もと子も絵「待つ」一年間展示。

もりたひらく　パソコンで絵本を作っています。「おかあさんの目玉焼き」と「チューリップ咲いたよ」https://ehon.alphapolis.co.jp/author/content/list/68172をご覧下さい。「絵本ひろば」または「EHON」でも検索できます。作者名は「ぽえむの森に花ひらく」となっています。

安森ソノ子　10月26日日芸プロにて「自作品を朗読し語る会」を主催。岸本嘉名男、近藤摩耶、下田喜久美、田島廣子、永井ますみ、福田ケイなどが参加してそれぞれの詩を語った。

【会員の詩書】

・家路昭子詩集『ハート処方箋』（私家版2022年）

・大西久代詩集『ラベンダー狩り』（七月堂2022年10月10日）

・現代生活語詩集2022『地球・THE EARTH』（竹林館2022年11月1日）

・関西詩人協会自選詩集第10集（澪標2022年12月1日）

【会員発行の詩誌】

アリゼ 第211号 以倉紘平
異郷 10月号 村上久雄
苺余果 174～176号 藤の樹々（藤本数博）
KAIGA 121号 原口健次
伽羅 26号 吉田定一
銀河詩手帖 314号 近藤摩耶
雲 第5号 南条ひろし
現代詩神戸 278・279号 永井ますみ
秋桜 28号 志田静枝
このて 73号 下田喜久美
軸 145号 榊次郎
詩の森 17号 熊井三郎
新燎原 44号 小林尹夫
朱雀 31 西田純
ターミナル 17号 奥村和子・神田さよ
ちいさな森 26号 関中子
花たちばな 第8号 もりたひらく
ふくろう通信 9・10号 加納由将
鉾 87号（京都詩人会議）呉屋比呂志
PO 187号 左子真由美
RAVINE 216号 牧田久未
RosaとKerne 5号 井上良子
リヴィエール 184・185号 正岡洋夫

【団体の会報・図書】

いわての詩2022 岩手県詩人クラブ
大分県詩人協会会報 164号
高知詩の会会報 27号
島根県詩人連合会報 91号
千葉県詩集第55集 千葉県詩人クラブ
中日詩人集 62
ANTHOLOGY TOYAMA 2022
表情 第31号 西宮芸術文化協会
日本現代詩人会会報 168
日本詩人クラブ詩界通信 100
長野県詩集 55
長野県詩人協会会報151
兵庫県現代詩協会会報 52号
兵庫県現代詩協会会報 52号 付録会報バックナンバー②
ふくい2022・福井県詩人懇話会
山形の詩（アンソロジー2022）山形県詩人会

関西詩人協会会報 第108号 発行者 左子真由美
関西詩人協会事務局 〒651-1213 神戸市北区広陵町1-28 石井方 永井ますみ Tel.Fax 078-581-9582
※次号原稿締め切り 2月末日です。 会報担当 森下和真 Email：togeuo@gmail.com